

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：33108

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26820266

研究課題名(和文)高齢者施設・地域施設における機能拡張性・機能代替可能性に関する研究

研究課題名(英文)A study of verified regional facilities functionally for supporting the elderly

研究代表者

黒木 宏一 (KUROGI, Hiromasa)

新潟工科大学・工学部・准教授

研究者番号：60514875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自律した高齢者の暮らしを支えるために、地域施設の福祉的利用に向けた、日帰り温泉施設、図書館、公民館・コミュニティ施設の3地域施設の機能の検証を行った。日帰り温泉施設では、日常的に利用できる場として、地域住民との繋がりを保つ拠点的功能を有し、図書館では、生涯学習を深める場として、また生活リズムを保つ場として機能し、公民館・コミュニティセンターでは、高齢者が社会的集団に加わり、他者と強い繋がりを保ちながら暮らせる機能を有していることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to verified regional facilities functionally for supporting the elderly. Research result of this study is show below. One-day hot springs has holding local community for elderly. Local library has role of lifelong learning and making rhythm about elderly life. Community center makes situation that elderly are connected social group and tied another people.

研究分野：建築計画

キーワード：地域施設 高齢者 自律した暮らし 日帰り温泉施設 図書館 公民館 コミュニティセンター

### 1. 研究開始当初の背景

超高齢社会を迎えた日本では、人口減少、高齢者の増加といった課題が深刻さを増し、介護保険制度による介護サービス・施設サービスの限界が叫ばれて久しい。

こうした状況下で、これまでの介護サービスや施設の量的充足とは異なる視点、具体的には介護保険制度の枠組みで進められてきた高齢者を支える仕組みを、多方面・他分野から改めて検討し、今後さらに急増していく高齢者に対して、介護サービスや高齢者施設に依存しない、より自律的な暮らしの環境をどう構築していくかが求められている。

### 2. 研究の目的

本研究では、高齢者の自律した暮らしを支える環境構築に向け、既存の地域施設における高齢者の福祉的な利用実態から、地域施設の潜在的に有する機能を明らかにし、高齢者施設や介護サービスを補完する施設としての機能の整理を行うとともに、今後の地域施設のあり方を検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

熊本県内、新潟県内の地域施設の運営者を対象に、利用者の属性や利用状況を把握するアンケート調査、および特徴的な利用が見られる事例に関するヒアリング調査を実施した(アンケート調査:2015年4~5月、ヒアリング調査:2015年8~9月)。地域施設の種別については、高齢者の日常的な利用が想定される「図書館」・「日帰り温泉施設」・「公民館・コミュニティセンター」の3施設を対象とした。これらのアンケート調査から、各地域施設の利用の特徴を把握したのちに、高齢者利用が顕著な事例について、高齢者利用者を対象としたアンケート調査を実施した(熊本県:2017年10月、新潟県:2018年3月)。また、これらの地域施設に合わせて、高齢者の利用が多い体育館施設についても、別途追加のアンケート調査を実施した(2015年11~12月)。

### 4. 研究成果

#### (1) 高齢者福祉施設の地域利用の可能性

高齢者福祉施設、特に住宅街や地域との関係が築きやすい施設、具体的には、小規模多機能型居宅介護施設(以下、小規模多機能)、認知症高齢者向けグループホーム(以下、GH)、地域密着型特別養護老人ホーム(以下、地域密着型特養)を対象とし、地域住民との関係や利用状況に関するアンケート調査を実施した。地域住民の日常的な利用、特に地域高齢者の利用状況から、高齢者の暮らしを支える既存福祉施設の可能性や多機能性を検証することを目的としている。配布数および回収数、回収率は以下に示す通りである。小規模多機能:配布数274/回収数81/回収率30%、GH:配布数426/回収数120/回収率28%、地域密着型特養:配布数97/回収数37/回収

率38%。小規模多機能施設については、地域住民の利用が見込まれる「地域交流スペース」の有無については、81件中42件(51%)と、ほぼ半数の施設では地域との関係を持てる空間を有している。一方で、その活用については、地域の住民組織やサークルなどへの場所貸しが主で、居住している高齢者との関わりや、日常的な施設利用までには至っていない。GHについては、地域に開かれた空間の有無は、120件中50件(42%)で、小規模多機能施設と比べ、地域に解放している空間の保有率は低い。利用の内容については、小規模多機能施設と同様の場所貸しや、施設運営型と地域住民との会議の場である運営推進委員会の開催場所としての利用が主であり、地域高齢者による日常利用までには至っていない。地域密着型特養における地域交流の空間(地域交流スペース)の保有率は、37件中、28件(76%)と最も高いものの、利用の状況は他の施設タイプと同様のものである。地域交流スペース保有率の高さは、各都道府県による設置基準に地域交流スペースの確保が求められていること、さらに他の施設と比べ、施設面積の規模が大きく、スペースが確保しやすいと言った建築的特徴があることが考えられる。地域交流スペースの地域住民の日常利用は積極的なものはあまり見られないものの、2016年4月に発生した熊本地震では、地域密着型特養の地域交流スペースが福祉避難所として利用されると言った、災害時の利用の有用性は確認されている。

以上のように、高齢者福祉施設の地域住民や高齢者の日常利用と言った状況や機能性は、顕著なものは確認できず、今後の積極的な利用が求められる。

#### (2) 地域施設の利用状況から見る検証

高齢者の日常利用が想定される「日帰り温泉施設」、「図書館」、「公民館・コミュニティセンター」の3施設について、熊本県、新潟県を対象とした運営者・管理者への利用実態に関するアンケート調査を実施した(2015年4~5月)。配布数、回答数、回収率は表1に示す。

表1. アンケートの配布・回収状況

対象施設	対象エリア	回収数/配布数	回収率
日帰り温泉施設	熊本県	31 / 128	24%
	新潟県	66 / 132	50%
	合計	97 / 260	37%
図書館	熊本県	27 / 48	56%
	新潟県	59 / 89	66%
	合計	86 / 137	63%
公民館・コミセン	熊本県	24 / 64	38%
	新潟県	96 / 155	62%
	合計	120 / 219	52%

#### 1) 日帰り温泉施設における利用特性(図1)

① 世代別の利用状況: 世代別では、小学生~高校生の利用は、年間を通じて利用はほとんど見られない。20~50代では、休日や盆・正月といった長期休みの利用が顕著である。高齢者世代では、逆に平日の利用が多く、全体の7割強を占める。平日では単身高齢者

(28%)、高齢者夫婦(26%)の順に高い。

日常利用客の属性：週1回以上の利用者の属性をみると、全体的傾向は単身高齢者(75件)、高齢者夫婦(66件)、20~50代単身(52件)の順に多く、単身高齢者の場合、自宅の入浴の代わりに、日々の日課としての利用もみられる。

利用高齢者の特性：高齢者の利用状況として、「知人・友人とのふれあいの場」としての利用が34件と最も多く、銭湯的な日常利用(12件)、孫などと一緒に訪れる(12件)の利用が見られる。また、食べ物を持ち寄りの利用、長時間利用などもみられ、高齢者にとって、日帰り温泉が「日常的な居場所」や「他者との関わりの場」としての機能を果たしている。

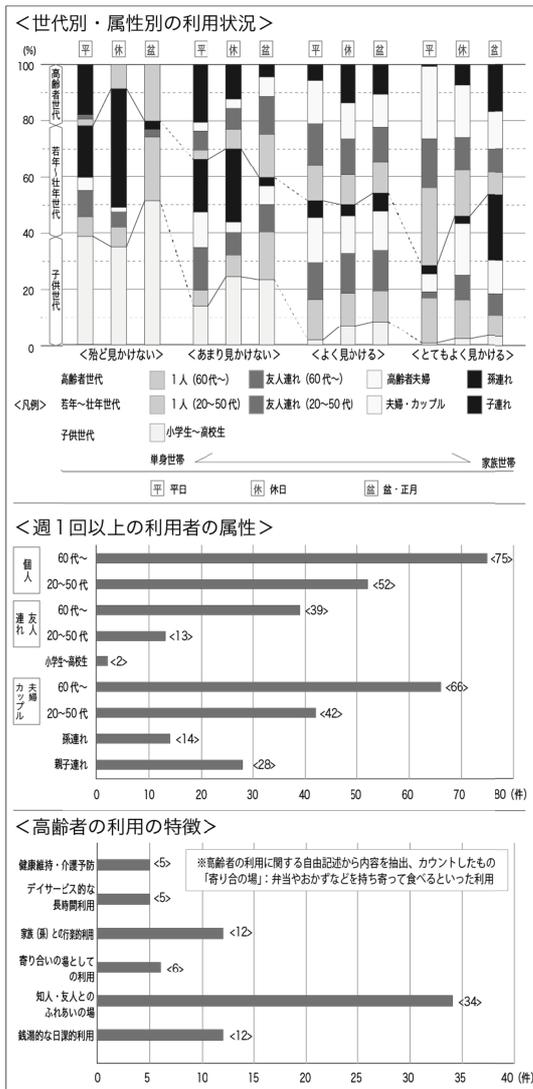


図1. 日帰り温泉の利用の実態

## 2) 図書館における利用特性(図2)

図書館における年間の世代別利用割合、利用頻度、滞在時間の傾向を捉える。10代や20~30代は、他の世代と比べると利用頻度が低く、40~50代では、年間21~40%程度の利用が7割強を占める。60代では、年間41~60%の利用が2割程度と、他の世代と比べ

て最も高い。週1回以上の利用は、60代以上で9割を占め、滞在の長さも60代が顕著である。高齢者の利用の特徴として、図書館の利用は、年間利用、日常的利用、滞在の長さといった点が挙げられる。

高齢者の利用内容：高齢者の利用でも最も多いものが、「新聞・雑誌の閲覧」で63件、「本の貸し出し」が38件、「調べもの・学習・研究」が20件である。高齢者にとって、「日々の情報収集の場」や「生涯学習の場」としての機能を果たしている。

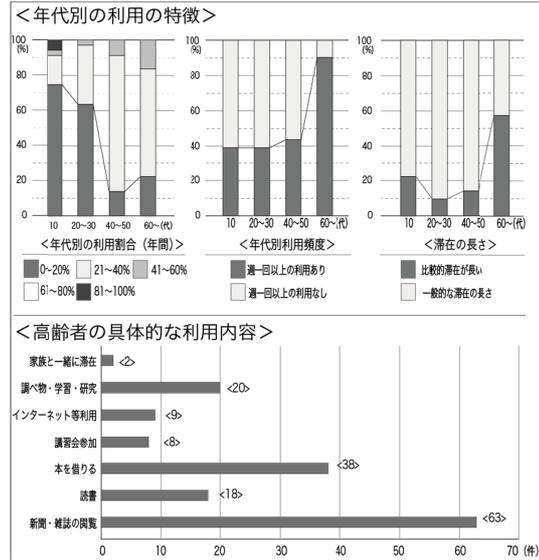


図2. 図書館の利用の実態

## 3) 公民館・コミセンにおける利用特性(図3)

団体別の利用状況：最も利用が多いでは、サークル団体が8割程度を占め、ついで利用頻度が高いでは、その他の住民団体が5割を占める。サークル団体、その他の住民団体の年代別内訳は10~50代では、利用はほとんどみられないものの、60代では61%以上の年間利用が6割を占める。その他の団体も同様に、60代の世代で高い利用傾向を示す。

活動別・世代別の利用状況：講演会・集会、講座・学習、サークル・同好会の3つの項目で、どの年代の参加・利用が多いかを見ると、どの項目も、10~30代では、ほとんど利用がみられない。40~50代では、講演会・集会での利用が61%以上で4割強、その他の項目もそれぞれ3割程度を示す。60代以上では、どの項目も高い参加・利用を示し、特にサークル・同好会での利用が顕著で、61~80%が7割程度、81~100%で3割を占めている。

定期的な活動と世代内訳：定期的な利用とその世代内訳は、60代以上の利用が109件、ついで10代から高齢者まで、多世代のグループの利用が39件、40~50代での利用が30件である。60代では、サークル・同好会での利用が最も多く65件、ついで講座・学習・教室が35件であり、サークル活動、講座・学習といった学びの活動が顕著である。公民館・コミセンでは、高齢者のサークル・同好



コミュニティセンター)を実際に利用している高齢者に対する利用状況や暮らしに関するアンケート調査を実施(熊本県:2017年10月、新潟県:2018年3月)対象施設は熊本県内の日帰り温泉施設3事例、図書館施設3事例、公民館・コミセン3事例、新潟県内の日帰り温泉施設3事例、図書館施設3事例、公民館・コミセン施設3事例である。配布数は熊本県・新潟県を合わせ、日帰り温泉施設240件、図書館265件、公民館・コミセン230件、回収数は日帰り温泉施設83件(回収率35%)、図書館151件(回収率56%)、公民館・コミセン133件(回収率58%)である。

利用者の属性:利用高齢者の年齢は、図書館、公民館・コミセンで6割強が60~74歳の前期高齢者であるが、日帰り温泉施設では、60~74歳の前期高齢者は39%、56%が65歳以上の後期高齢者であり、他の施設と比べ、年齢層が高い。世帯構成は3施設とも一人もしくは夫婦二人暮らしが6割程度で、公民館・コミセンの利用者では他の施設と比べ夫婦二人暮らしが52%と高い割合を示す。施設に通う移動手段は、3施設とも5割~6割で自家用車での利用であり、高齢期となっても車利用が日常的な移動手段となっている。

施設利用の特性と利用高齢者の意識:3施設の利用頻度を比較すると、日帰り温泉施設では、ほぼ毎日から、週に2~3日の利用が57%を占め、その中でもほぼ毎日の利用が38%と極めて頻繁に日常的に利用している状況が分かる。図書館では、31%がほぼ毎日~週に2~3日の利用であり、その多くは週に2~3日の利用(18%)である。公民館・コミセンは、他の施設と比べ毎日の利用はなく、大半が月に1日程度(37%)、週に1日程度(36%)である。日帰り温泉施設、図書館が、高齢者の日常的な行為、また、一人でも利用できる施設であることが、利用の高さに現れているものと考えられる。

また、利用の目的や、施設(場)の認識を把握する設問(複数回答)に関しては、日帰り温泉施設では、利用目的として、「健康維持(59件)」、「気晴らし(37件)」、「自宅入浴の手間の解消(29件)」、施設・場の認識として「友人や地域の人と触れ合える場(50件)」、「家族と楽しめる場(15件)」であり、注目される点として、単に入浴だけでなく、「友人や地域の人と触れ合える場」として施設を認識しており、日常的な利用と相まって、地域で自立して暮らしながら、他者とのつながりが保てる機能を有している。図書館においては、利用の目的として「自分の学びを深める(85件)」が圧倒的に多く、その他「気晴らし(39件)」、「外出する機会(37件)」、「日々の日課(27件)」である。施設・場の認識としては、「友人や地域の人と触れ合える場(27件)」、ついで「家族と楽しめる場(14件)」であり、日帰り温泉と比べると、他者とのつながりを保つ場としての認識は低く、個人的な学び・生涯学習の場としての認識が

高い。公民館・コミセンの施設では、利用の目的が「自分の学びを深める(73件)」、「知人・友人を増やしたい(48件)」が圧倒的に多く、施設・場の認識では、「友人や地域の人と触れ合える場(91件)」に集約される。公民館・コミセンでは、高齢者によるサークル団体・同好会の利用が活発であり、自分の趣味や学びを深めることとともに、その場で出会った友人・知人との関わりを深める・保つ拠点としても機能している。

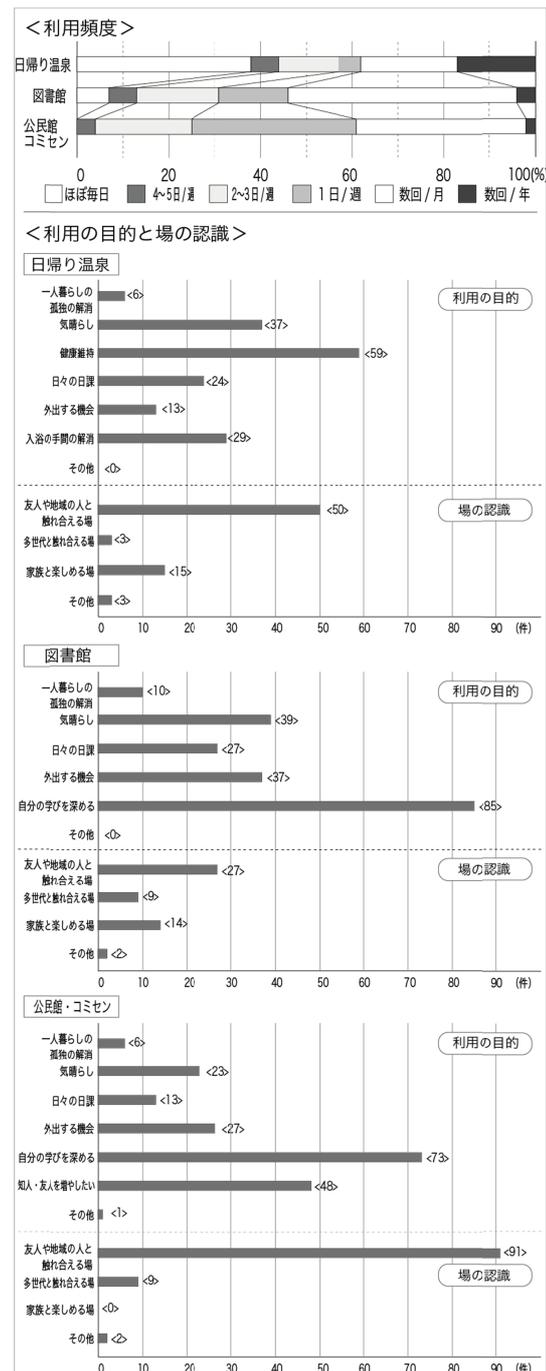


図5. 地域施設の利用目的と場の意識

## 6) まとめ

本研究で検証した高齢者福祉施設、地域施設の高齢者の自立した暮らしを支える、また、高齢者福祉サービスを補完する機能の検証を以下にまとめる。

高齢者福祉施設：高齢者福祉施設が地域の高齢者を支える第二の機能や場となり得る可能性は、小規模多機能施設や、地域密着型特養が有する「地域交流スペース」を持つ事例が想定されるものの、具体的な利用状況は、貸しスペースなどの利用に留まり、地域への利用、また地域高齢者の日常的な利用までには至っていない。今後の展開としては、地域高齢者のサークル団体への場の提供や、地域サロンとしての展開などを通じ、地域の高齢者の見守りや情報の把握などから、自律した高齢者への介護保険サービスに寄らない補完的な支援が期待される。

日帰り温泉：高齢者の日常的な利用が活発であり、「日常的な居場所」や「他者との関わりの中」としての機能を有しており、日常的に利用されやすい施設であることと、高齢者の属性（年齢や趣味・趣向）を問わず、高齢になっても、利用できるなど、幅広い高齢者の気軽な利用により、地域住民との繋がりの拠点性を有している。

図書館：ほぼ毎日利用する高齢者から、週2～3日の利用まで、利用頻度には幅があるものの、高齢者の生涯学習・自分の学びを深める場として機能している。他の施設と比べると、地域や知人との繋がりを保つ拠点性は見出しにくく、高齢者個々の暮らしを充実させる場としての意味合いが強い。外出する機会や、気晴らし、日々の日課など、高齢者の暮らしのリズムや社会との接する機会を与える場としての役割を果たしている。

公民館・コミセン：高齢者の学びや趣味を深める場として、さらにサークル団体・同好会での定期的な利用による繋がりが保持される場として機能している。不特定多数のつながりではなく、ある共通の目的を共にする他者との強いつながりを維持する場であり、社会的集団に帰属できる場としての役割も兼ね備えている。

体育館：高齢者の暮らしの充実感を高める構造が認められ、身体的・精神的なレベルの維持や向上が、さらなる目標ややりがいを生み出し、その結果暮らしの充実感をさらに高めるサイクルが展開されている。

以上のように、地域施設には高齢者の自律した暮らしを維持・豊潤化させる潜在的機能を有している。従来型の高齢者施設や介護サービスを基調としながらも、こうした地域施設の機能・役割を高齢者福祉の視点で捉え直し、既存施設やサービスと合わせて再構築することが求められる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

黒木宏一:高齢者福祉展開に向けた地域施設の有する多機能性に関する研究;日本建築

学会大会(九州)

学術講演梗概集, E-1, 261-262, 2016, 7.

富樫賢也, 福島啓奨, 黒木宏一:体育館における高齢者の利用の意識と特性-体育館利用高齢者にみる、暮らしのアクティブさと充実度に関する研究 1-;日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集, E-1, 289-290, 2016, 7.

福島啓奨, 富樫賢也, 黒木宏一:体育館の利用を通じた高齢者の暮らしの充実度とその要因-体育館利

用高齢者にみる、暮らしのアクティブさと充実度に関する研究 2-;日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集, E-1, 291-292, 2016, 7.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

黒木 宏一 (KUROGI, Hi rokazu)

新潟工科大学・工学部・工学科・准教授

研究者番号: 60514875

(2)研究分担者(なし)

(3)連携研究者(なし)

(4)研究協力者(なし)